【法蔵館文庫】

催眠術の日本近代

2025年9月刊行

一柳廣孝（いちやなぎ ひろたか）著

▼文庫判・並製カバー・272頁・定価 一、一一〇円

明治日本を席巻した「催眠術ブーム」。知と欲望が渦巻いたその盛衰をたどり、日本近代史の知られざる横顔を鮮やかに描き出す！

【目次】

はじめに

Ⅰ　催眠術の登場——合理と非合理のはざまで

1　**催眠術の移入**
「こっくりさん」の向こう側／催眠術の移入／アカデミズムと催眠術／催眠術と小説・演芸／催眠術ブームの断絶

2　**異形としてのメスメリズム**
メスメリズムの移入／メスメリズムとスピリチュアリズム／メスメリズムと「電気」

3　**「幻術」の発見**
催眠術と幻術のあいだ／幻術としての「忍術」／近藤嘉三『幻術の理法』『魔術と催眠術』／気合術師、浜口熊嶽

4　**「幻術」の歴史**
幻術の歴史／幻術とキリシタン／『動物電気概論』と『魔術と催眠術』の〈絵〉

Ⅱ　催眠術ブームの背景

1　**明治三十六年の催眠術**
催眠術ブームの再来／「脳」と「神経」と催眠術／催眠術書の中身／催眠術と心霊学／「万能薬」としての催眠術／催眠術の「霊」的理論

2　**幸田露伴「術比べ」の周辺**
催眠術は「邪法」か「科学」か／「狐」というメタファー／憑物信仰と催眠術／写真・玉突き／催眠術

3　**アカデミズムと権力／制度**
『催眠術及ズッゲスチオン論集』の刊行／心理学・精神医学の眼差し／心理学と精神医学の「学」的附置／犯罪としての催眠術／宮崎県の私為医業被告事件

Ⅲ　変質する催眠術

1　**森鷗外「魔睡」の象徴性**
鷗外と「魔睡」／明治四十二年の催眠術／誘発される「性」

2　**「千里眼事件」の波紋**
千里眼事件と催眠術／メディアの眼差し／福来友吉の挫折／「催眠術」から「霊術」へ

Ⅳ　霊術の時代

1　**霊術のバックグラウンド**
大槻快尊「精神療法の話」／心理学の「心霊」からの撤退／高橋五郎の「心霊哲学」／マイヤーズの「潜在意識」／精神分析の危うさ／禅と催眠術

2　**多面体としての霊術**
村上辰午郎の催眠術普及運動／多面体としての霊術／霊術の営業戦略／太霊道と大本教／「神経病」の時代のなかで

3　**霊術の行方**
庶民の眼差し／霊術ブームの終焉

おわりに——世紀末と現代日本

あとがき／文庫版あとがき

【著者略歴】

一柳廣孝（いちやなぎ　ひろたか）

一九五九年和歌山県生まれ。一九八九年名古屋大学大学院博士課程満期退学。名古屋経済大学専任講師、横浜国立大学教育学部助教授、同教授等を経て、現在東京女子大学現代教養学部特任教授。専門は日本近現代文学・文化史。博士（文学）。著書に『無意識という物語——近代日本と「心」の行方』（名古屋大学出版会）、『怪異の表象空間——メディア・オカルト・サブカルチャー』（国書刊行会）、『増補版〈こっくりさん〉と〈千里眼〉——日本近代と心霊学』（青弓社）。編著書に、『心霊写真は語る』『「学校の怪談」はささやく』『オカルトの帝国——一九七〇年代の日本を読む』『ライトノベル研究序説』（以上、青弓社）などがある。

思想史

法藏館
〒600-8153　京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458　FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

ご注文はFAX:075-371-0458

注文書

(書店印)

ご担当　様

冊

法藏館

定価 一、一一〇円

一柳廣孝著
催眠術の日本近代
【法蔵館文庫】

ISBN：978-4-8318-2707-4 C0121

ご住所

お電話

お名前

20250704